

ASCO2010 Annual meeting に参加して

日本大学板橋病院
消化器外科
三原 良明

今回私は初めて ASCO Annual meeting (2010/6/4~6/8) に参加させて頂きました。国内の学会とは異なり、世界中のあらゆる分野（医師だけでなくパラメディカルを含めて）の職種の方々の参加していることもあり、その規模は私の想像をはるかに超越していました。その学会会場の広さから、飛び交う言語の種類多彩さ、現地の業者のデモンストレーションの種類や規模等、私にとっては、どれをとっても非常に刺激的でした。

学会の内容として、私が個人的に注目した大きな試験は2つありました。1つ目は6日（日）に発表のあった N0147 試験の結果で、stage III 結腸癌切除例における補助化学療法として、EGFR 阻害薬 Cetuximab が mFOLFOX6 による標準的化学療法の benefit を増強するか否かを検討すべきものでした。結果は Cetuximab による benefit は認められないという残念なものでした。

もう1つは7日（月）に発表のあった AVAGAST の結果で、進行胃癌に対する 1st line 治療として Capecitabine/Cisplatin(XP)に Bevacizumab またはプラセボを加え投与比較する、ランダム化二重盲検プラセボ対照第 III 相試験でした。この結果も Disease Free Survivalこそ有意差をもって延長を認めたものの、Primary end point であった Overall Survival は残念ながら有意差を認めず、結果としては negative な結果となってしまいました。

特に期待されていた胃癌、大腸癌の分子標的薬剤での大規模試験の残念な結果を受けたためなのか、今回参加していた日本人消化器科の先生方からの口から自然に「今回の ASCO は negative ASCO だな」などと愚痴がこぼれていたのが印象的でした。

また現地では多くの日本の oncologist の先生方と、食事をしながら歓談する機会があり、大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。今後はこのような機会に若い医師がもっと参加できれば、日本の腫瘍学もより活性化し、もっと進歩するものだと思います。

できれば来年もぜひ参加させていただき、今度は「positive ASCO」の印象となる結果をききたいと思います。